

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市社会福祉審議会第46回（令和5年度第4回）高齢者福祉等専門分科会		
事務局 (担当課)		健康福祉局地域包括ケア推進部地域包括ケア推進課 電話 042-769-9222（直通）		
開催日時		令和5年10月5日（木）10時00分～12時00分		
出席者	委員	9人（別紙のとおり）		
	その他			
	事務局	健康福祉局長、地域包括ケア推進部長、地域包括ケア推進課長、在宅医療・介護連携支援センター所長、福祉基盤課長、高齢・障害者福祉課長、高齢・障害者支援課長、介護保険課長、中央高齢・障害者相談課長、住宅課長ほか6名		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開会 2 あいさつ 3 議題 (1) 第9期相模原市高齢者保健福祉計画（素案）について (2) 第9期相模原市高齢者保健福祉計画（素案）答申（案）について 4 その他 5 閉会		

審 議 経 過

内容は次のとおり。

1 開会

2 あいさつ

若林健康福祉局長よりあいさつを行った。

3 議題

(1) 第9期相模原市高齢者保健福祉計画（素案）について

【事務局】資料1、資料2により、第9期相模原市高齢者保健福祉計画（素案）の第1章から第3章までの内容について説明。

(羽田委員) 短期集中予防サービスの指標について、基準値85人から目標値800人に増加させることについて、妥当性や考え方について教えていただきたい。

【事務局】短期集中予防サービスについては、今年は200人を目標として取り組んでおり、令和8年度には、800人の方に利用していただけるよう目標を立てている。

(羽田委員) 平成30年に創設された、医療と介護のニーズを併せ持つ高齢者に対するサービスである介護医療院については、地域包括ケアシステムの集大成といった位置付けになると思うが、相模原市として、介護医療院についてどのような考えを持っているのか。また、計画の中で介護医療院の問題に対する市の姿勢を盛り込む必要がなかったのかということについて確認したい。

【事務局】介護医療院については、非常に重要な施設であると認識している。推計作業中ではあるが、78ページの特別養護老人ホーム等の整備実績・目標の中段あたりに、介護医療院の計画期間中の整備目標を記載する予定である。需要の把握や医療関係法人との調整といったところも必要になるため、今後そのあたりも踏まえて、検討していきたい。また、2040年を見据えると、後期高齢者が増加するとともに、医療と介護のニーズを併せ持つ高齢者が増加することは認識しているところであり、医療と介護の連携などについても引き続き検討していきたい。

(羽田委員) 私自身透析患者であり、介護医療院で透析医療までできるようになることを望んでいることから、関心が深いため、今回質問させていただいた。

【事務局】先ほど説明した推計作業中の部分については、12月の中旬から1月までの期間で実施するパブリックコメントの際には、数値をお示しする予定である。

(篠塚委員) 25ページの(4)の2つ目の○の部分について、地区社会福祉協議会が入っていない。用語説明の地域ケア会議には、地区社会福祉協議会が入っているが、入っていないのには何か意図があるのか。

【事務局】意図的に落としている訳ではないため、地区社会福祉協議会について追記する。

(篠塚委員) 45ページのいきいき百歳体操のコラム部分に、「自治会や集会所等を会場に」とあるが、場所として自治会というのは違和感がある。「自治会館や集会所等」が適切ではないかと考える。

【事務局】「自治会館や集会所等」と修正させていただく。

(相澤委員) 29ページの短期集中予防サービスについては、介護保険の認定を受ける前に、短期的に取り組み、状態を良くしていこうということだと思うが、民生委員や地域の方がお付き合いの中で、このサービスの対象者を見つけていくことになると考える。一人暮らしの方が増えていく中で、どのように対象者とサービスを結び付けていこうとしているのか、市の考えをお聞かせ願いたい。

【事務局】民生委員さんがそのような対象者を繋いでいただくことも想定しているが、地域包括支援センターや高齢・障害者相談課の窓口、いきいき百歳体操の場所などにおいても、幅広く呼び掛け、繋いでいくことを考えている。

(相澤委員) 地域包括支援センターやいきいき百歳体操に出向く方は割と元気な方や積極的な方が多く、そうではない方は取り残されてしまう。難しいとは思いますが、このような状況も踏まえて、考えていただきたい。

(笹野会長) 短期集中予防サービス利用者の増加に関する指標に関してだが、なぜ800人という目標を設定したのか、再度具体的に説明いただきたい。

【事務局】新規の要支援対象者が約3,000人おり、その中でデイサービスなどを利用する方が約800人いると市で試算したものである。

(笹野会長) 85人から800人に増加させることとしているが、数字を比較すると大きく感じる。また、全ての要支援認定者が利用できるように記載されており、要支援者が800人と推計されているように見えてしまう。さらに、要支援者を減らすことを推進しており、目標値である800人を下回ることは問題ないと考えられる。そのため、800人という絶対値ではなく、要支援者の100%が利用できるようにするなど表現の修正の検討をお願いしたい。

【事務局】ご意見を踏まえて修正について検討させていただく。

(大貫委員) 介護予防に関しては、民生委員が訪問した際に、脚が痛むなどの不調の訴えなどがあった場合、介護予防に関するサービスなどの制度の案内を行っている。

(梶川委員) ある研究所が高齢者の方々に対してアンケートを取り、アンケートに返事がなかった方に対して後追いしたという調査がある。家族がいれば代わりに書いてあげることができるが、回答ができない場合は何かしらサポートが必要な状態であることが考えられる。アンケートに答えられない方に対して、アプローチをすることにより、早めに支援の手を差し伸べることができるのではないかという情報提供である。

【事務局】資料1により、第9期相模原市高齢者保健福祉計画(素案)の第4章以降の内容について説明。

(篠塚委員) 66ページの介護人材の不足への対応のコラムについては、コラムではなく、現状と課題や今後の方向性に入れた方がいいのではないかと感じた。他のコラムを見ると、用語の説明である場合がほとんどであり、他のコラムと内容が異なるのではないかと思う。

【事務局】ご指摘のとおり、他のコラムと並べてみると違和感があり、適切ではないと思うので、掲載箇所については、ご意見を踏まえて修正させていただく。

(大貫委員) 107ページの今後の方向性の認知症高齢者・障害者等SOSネットワークシステムの周知と行方不明になるおそれがある高齢者の事前登録を進めるこ

とについて、どのような取組なのか説明いただきたい。

【事務局】事前登録については、SOSネットワークシステムを申請する際の、写真の提供などの登録であり、事前登録とSOSネットワークシステムは別物というわけではない。システムの登録を推進する観点から方向性に記載しているものである。

(大貫委員) 民生委員が認知症で心配だなという方を見つけた際には、どこに連絡すればよいのか。

【事務局】基本的には、地域包括支援センターに連絡をしていただくことになる。本人や家族の了承を得た上で、登録することになる。昨年10月からQRコードを使用した見守りシールの配布及びコールセンターを設置している。このような取組も推進し、なるべく行方不明にならないようにしていきたいと思っている。

(阿部委員) 介護人材については、確保・定着・育成という部分に関して、現場でも非常に悩んでいるところである。福祉基盤課が実施する人材に関する研修については、非常にありがたいと思っているが、参加者が思ったより少なかった。それは、現場では人を出せないという状況がある。他にも有益な研修がたくさんあるが、そこにも人を出せない。そのような背景からも今回計画に記載いただいている介護人材に関する内容は非常に重要なことであると思っている。

【事務局】研修に関しては、対面がなかなか難しいというような状況を把握している。引き続き様々な手法を検討し、介護人材の確保・定着・育成に努めていきたい。

(相澤委員) 46ページのリハビリテーション提供体制の充実の部分について、要介護1の認定を受けて、再自立をさせるということは考えられるが、介護施設に入所した方が回復して退所してくるという例はあまり聞かない。可能性としてどのように考えているのか、お聞きしたい。

【事務局】短期集中予防サービスの対象としては、要支援1・2の方を想定している。そういった方であれば、リハビリテーション専門職が介入し、セルフケアによって、再自立することが見込まれる。要介護の状態までいってしまうと、要支援に戻ったり非該当の状態にしたりするのは難しいと考える。そのような方に対しては、重度化しないように適切なサービスに繋ぐことが重要であると考えている。

(相澤委員) 以前より、要介護認定が難しくなっていると思うが、どうか。

【事務局】 要介護の認定については、全国一律の基準で実施しており、以前から難しくなっているということはない。

(田中委員) 49ページの表の中に、オーラルフレイルという記載があるが、歯科医師会では、お口の健康教室というものを老人クラブなどで年間20件ほど実施している。更にオーラルフレイル予防教室というものを作り現在実施しているところである。特徴としては、お口の健康教室でポピュレーションアプローチを行い、重症な方を見つけて、個人的な検査をして、それに対するリハビリを行う二段構えで実施している。第8期の期間中に、他市の取組を調べたが、このような体制で実施しているのは相模原市だけであるため、ぜひみなさんに広く知ってもらいたいと考えている。

【事務局】 健康増進課と調整をして、オーラルフレイルに関する事業の記載の充実について検討していきたい。

(相澤委員) 認知症の方もこういった食事を摂れば認知症になりにくいとか、こういったことをすれば治るといったこともあると聞いているので、講習会などを実施していただけたらありがたいと思う。

【事務局】 認知症の専門医から口腔ケアは非常に大事と聞いており、昨年度の3月に認知症に関する運動や口腔などの内容を盛り込んだパンフレットを作成している。更に認知症施策については、介護予防や医療介護の分野とも横串を刺して実施していかなければならないと思っている。

(笹野会長) 介護ロボットやICTの導入、生産性の向上に関しては、行政の支援や適切な指導が必要になってくるとされる。それには予算の確保が必要になってくるため、本計画に明確に位置付けるとともに、必要なことが確保できるようにしっかりと発信をしてもらいたい。

(阿部委員) 59ページに人生会議に関するコラムがあり、非常に重要だと思っている。サービス利用者の家族が年相応に衰えていくことを受け止めきれなく、介護者に不手際があったのではないかと責められることがある。それで、介護者が精神的にまいり、仕事を辞めてしまうということが起きている。そういったことが起きないように、人生会議の考え方を家族などに対しても広めていってほしいと考えてい

る。

【事務局】 人生会議の前にある意思決定支援、そこから人生会議に繋がっていくということが非常に重要であると考えている。11月30日は、いい看取りの日とされており、人生会議をテーマとして、あじさい会館で市民講演会を予定しているので、広報さがみはらなどの媒体で広く周知していきたい。

(島森委員) 軽度の方に対しては、リハビリなどで進行を抑えたり、回復させたりする取組があるが、重度の方に関しても、進行を抑える取組に力を入れていく必要があると思う。

【事務局】 重度化防止の取組は重要であると考えている。生活習慣病の対策なども含めて重度化しないような取組を進めていきたい。

(2) 第9期相模原市高齢者保健福祉計画(素案)答申(案)について

【事務局】 [資料3](#)により、第9期相模原市高齢者保健福祉計画(素案)答申(案)の内容について説明。

(笹野会長) 答申(案)については、意見がないようなので、この内容で進めたいと思う。また、今後計画素案に対する意見を踏まえて修正が必要な場合については、私に一任いただいて事務局と相談をして決めさせていただければと思うがいかがか。

(各委員) 意見なし。

4 その他

事務局より「意見シート」の取扱いについて説明を行い、各委員に意見の提出について依頼を行った。

5 閉会

以上

相模原市社会福祉審議会高齢者福祉等専門分科会 委員名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	相澤 由美	相模原人権擁護委員協議会		出席
2	阿部 匡秀	一般社団法人相模原市高齢者福祉施設協議会	職務代理	出席
3	石黒 雄彦	相模原市老人クラブ連合会		欠席
4	梅澤 慎一	一般社団法人相模原市医師会		欠席
5	大貫 君夫	相模原市民生委員児童委員協議会		出席
6	梶川 義人	日本虐待防止研究・研修センター		出席
7	笹野 章央	社会福祉法人相模原市社会福祉協議会	会 長	出席
8	篠塚 実希子	相模原市自治会連合会		出席
9	島森 政子	特定非営利活動法人 相模原市障害児者福祉団体連絡協議会		出席
10	田中 雄一郎	相模原市歯科医師会		出席
11	羽田 彌	特定非営利活動法人相模原ボランティア協会		出席
12	森谷 郁美	相模原公共職業安定所		欠席